

# 世界遺産登録に向けて

## 西三川砂金山(18) — 砂金稼ぎの秘訣 —

砂金がよく採れたのは、どのような場所だったのでしょうか。味方孫太夫という山師は、弘化3(1846)年9月に「西三川金山所絵図 秘」という絵図を作成しています。この絵図には、次のように記されています。

砂金のある所は、松や草の生え方が異なっている。これを目当てに地表から2〜3尺を掘る。これを「開穿」という。また、山がはげけて赤黒くなっている所を「焼き」といい、このような所に砂金が出る。「焼き」ではない所から少々の砂金が出ることもあるが、これを「ゴミ金」という。(中略) … いずれの山でも、砂金が出る所から白石が出る。中には紫石もある。「吹割」(石英を含んだ欠片か)などが出ることもある。これが出ると「吹台」(欠片の元石)がある。これはよいことで、「立合」(石英の筋)が見つかることにつながる。大きさは1〜2尺くらいで、多くは丸く、玉になって出る。鍤(鉞脈)のようなものが含まれていることもある。「無名異」(赤土)の所で

あれば砂金が出る。

岩肌に出る「馬鹿金」(黄銅鉱か)というものは、砂金のようなものであるが、性質は堅く、これは全く金ではない。立残山で出るとのこと(以下略)。

宝暦年間(1751〜64)にまとめられた『佐渡四民風俗』には、柿野浦の黄金山発見について、「此の所、山の頂赤く禿げ、外の山立とは違い申し候」とあります。かつて山師たちは、このような山を目当てに砂金稼ぎをしたのでしよう。

◆市役所世界遺産推進課(金井就業改善センター内) ☎63-5136



「西三川金山所絵図 秘」(個人蔵)部分。虎丸山(右上)を「船窪」と呼んでいたことや、砂金を探す秘訣などが記されている。

## 国際交流員退任のあいさつ

皆さま、こんにちは。佐渡市国際交流員の庄苗苗(しようみょう)です。



時が経つのは早いものです。もうすぐ1年の任期が終わることになります。1年間にわたり、国際交流員として皆さまには大変お世話になりました。心よりお礼申し上げます。

振り返ってみると、本当に感動に満ちた1年間であったと思います。

私は、4年前にトキを通して初めて佐渡のことを知りました。佐渡はトキの故郷なので、豊かな自然に恵まれた土地であることは言うまでもないですが、実際に来てみたら、想像以上にきれいなところであるとわかりました。青空をバックに青く澄んだ海、一面に広がる田んぼ、そして今まで見た一番美しい夕日と満天の星空、自分にとつて佐渡は、宮崎駿監督が作り出したアニメのようなさまざまな感動が得られる世界です。

観光振興課に所属して、佐渡のたくさんの観光資源を見学・体験することができました。豊かな自然や金山を中心とする佐渡鉱山の遺跡、トキと共生する佐渡の里山、日本ジオパークに認定された佐渡の大地、そ

して長い歴史と代々継承されてきた島独特の芸能や文化、また、さまざまな体験プログラムと美味しい地元食材、中華圏の訪問団や取材者に佐渡を紹介するたびに、語っても語り尽くせないほど、佐渡には多くの観光資源があることに気がきます。

一方、市役所の仕事は初めてなので、未熟な点も至らなかつた点も多くあり、周りにご迷惑をおかけしたことも少なくなかつたと思いますが、職場の方々をはじめ、皆さまの温かいサポートのおかげで無事に1年を乗り越えることができました。そして、出前講座を行うとき、市民の方々や子どもたちが、いつも興味を持って話を聞いてくださり本当に嬉しかったです。冬に始まった中国語講座も、予想以上に多くの方々に参加していただき、たくさんの自信を与えていただきました。この場をお借りしまして、親切で熱心な佐渡の皆さまに再びお礼申し上げます。本当にありがとうございます。

国際交流員として佐渡で活動した1年間は、私にとつて大変に貴重な経験であり、人生の宝物であると思います。これからは、中国に帰りますが、依然佐渡の大ファンとして佐渡の魅力を発信し続けたいと思います。また、この1年間の経験を生かし、日中の友好交流に微力ながら尽くしていきたいと願っております。